

# 多良間港(普天間地区) TARAMA PORT



多良間港  
(普天間地区)

位置図

港	格：地方港湾
港湾管理者	沖縄県
所在地	多良間村(多良間島)
面積	480ha
設立年月日	昭和47年5月15日
港湾区域変更状況	平成19年4月1日

多良間港(普天間地区)は、宮古島の西約67kmの多良間島(人口1,364人、平成17年国勢調査)の東側に位置する地方拠点港湾であり、平良港との間に定期フェリーが就航しているほか、地元の小型船等が利用している。

本地区は、昭和47年に普天間港として沖縄県管理の地方港湾に指定され、平成19年に多良間港(普天間地区)となった。これまでに、防波堤、-4.5m岸壁、-5.5m岸壁、小船だまりの施設等が整備されてきた。

今後、航路口における船舶の安全性を確保するために航路の拡幅が計画されている。

## 【定期航路】

◇フェリー 平良/多良間 6便/週  
〔フェリー-たらまゆう 457G/T〕



平成 18 年 11 月



昭和 47 年 11 月





平成 18 年 11 月



昭和 47 年 11 月

# 多良間港(前泊地区) TARAMA PORT



港	格：地方港湾
港湾管理者	：沖縄県
所在地	：多良間村(多良間島)
面積	：480ha
設立年月日	：昭和47年5月15日
港湾区域変更状況	：平成19年4月 1日

多良間港(前泊地区)は、多良間島の北側に位置する地方拠点港湾であり、多良間島の北方約8kmの水納島への連絡船と地元の小型船が利用している。また、現在進められている岸壁の改良工事完了後は、平良港との間の定期フェリーが就航する予定である。

本地区は、昭和47年に前泊港として沖縄県管理の地方港湾に指定され、平成19年に多良間港(前泊地区)となった。これまでに、防波堤、小船溜りの施設、-4.5m岸壁、旅客待合所等が整備されてきた。

現在は、岸壁の改良工事が進められており、今後、大型化した定期フェリーに対応するために航路拡幅、防波堤移設、さらには、水納島への連絡船及び遊漁船に対応した浮棧橋等が計画されている。

## 港湾関連用語解説

- TEU twenty-foot equivalent units  
20ft(コンテナの長さ)換算のコンテナ取扱個数の単位。  
大部分のコンテナオペレーターは、ISO規格の20ftコンテナや40ftコンテナ等の形状(容積)が異なる複数のコンテナを採用しているため、場合により、コンテナの単純合計個数で取扱量を計るよりも、20ftコンテナ1個を1TEU、40ftコンテナ1個を2TEUとして計算する方が実態を適切に把握することができる。
- FEU forty-foot equivalent units  
40ft換算のコンテナ取扱個数の単位。
- FCL Full container load cargo  
コンテナ1個分を満たすことができる貨物。
- LCL Less than container load cargo  
コンテナ1個分を満たすには足りない小口貨物。